
えりも海域のハタハタ産卵場調査

栽培水産試験場 調査研究部

● 研究の目的

本道太平洋沿岸のハタハタは、日本海のハタハタに比べ研究が進んでおらず、その生態に不明な点も多い。本調査では日高系ハタハタの主産卵場である、えりも海域の産卵場において、産卵生態の解明や産卵量の把握を試みた。

● 研究の方法

えりも町本町前浜の水深1～10mで、潜水によりハタハタ卵塊（ブリコ）の付着した海藻を採取、または水中ビデオ撮影し、卵塊の付着数や付着状況を観察した（写真1）。また、空中写真の解析により（写真2）、えりも町本町前浜の藻場面積を概算し、産卵量を推定した。

各産卵年の日高海域ハタハタ漁獲量から計算した産卵親魚尾数と、本調査で得られた推定産卵量を比較した。

なお、これらの調査は日高地区水産技術普及指導所及び日高管内栽培漁業推進協議会の協力を得て実施した。

● 研究の成果

- ①ハタハタ卵塊は主にウガノモクに付着していた。卵塊の付着したウガノモクは大半が全長20cm、重量30g以上で、ハタハタが選択的に大型の藻体に産卵することが示唆された（図1）。
- ②複数の卵塊が互いに接着して産み付けられている状態がしばしば観察された（写真1）。この傾向は、特に1才親魚の卵塊（単体で20g未満）で顕著であり、日高系ハタハタの特徴的な産卵生態と考えられた。
- ③本調査で得られた推定産卵量と、漁獲量から計算した日高海域の産卵量は概ね対応しており、年変動の傾向も良く一致したことから（図2）、えりも産卵場では、漁獲量に応じた量のハタハタ卵塊が実際に産み付けられていると考えられた。

● 成果の活用

各地域で実施されるハタハタ人工種苗の生産・放流等の増殖事業や産卵場である藻場の造成事業等に本研究で得られた成果を反映させることにより、事業の効果向上や効率化が期待される。



写真1 ハタハタ卵塊が産み付けられたウガノモク

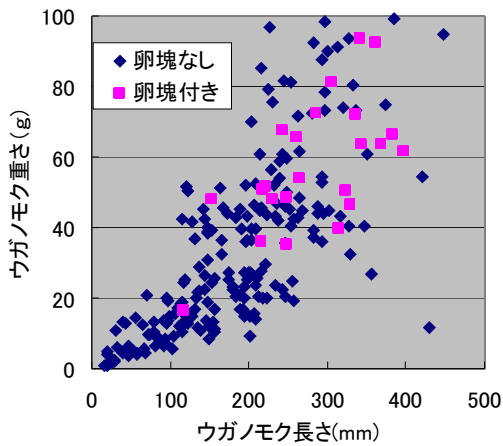


図1 ハタハタ卵塊の付着の有無と、ウガノモクの大きさの関係 (100g以下のウガノモクに限る)

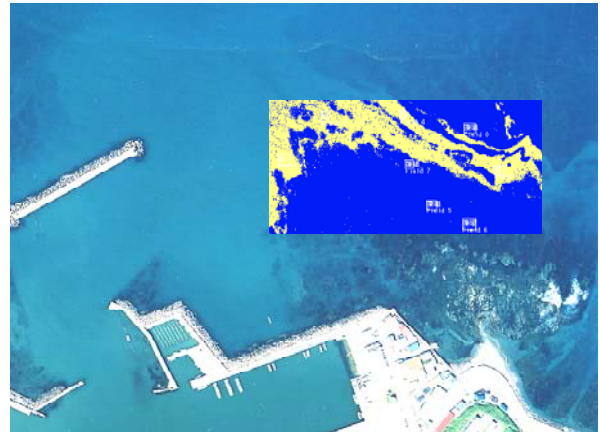


写真2 えりも町前浜の空中写真の解析

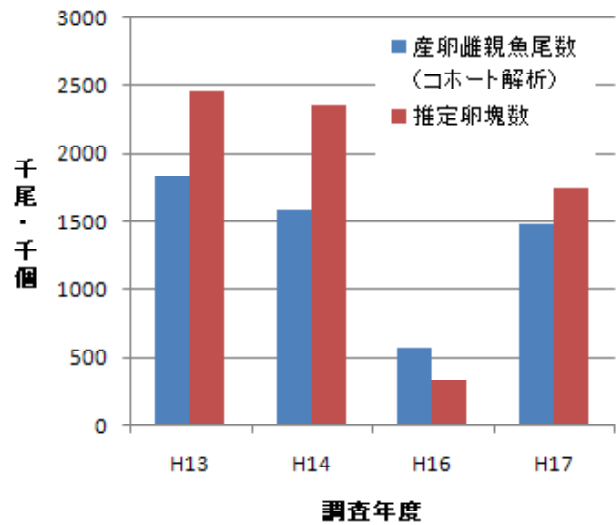


図2 H13~17年 (H15年を除く) の、ハタハタ産卵親魚尾数 (コホート解析) と、本調査による推定卵塊数 (1才魚に限る)